

豪雨は激甚化などしていない

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キャノングローバル戦略研究所 研究主幹

地球温暖化に関する報道を見てみると、間違い、嘘、誇張がたいへんによく目につく。そしてその殆どは、簡単に入手できるデータで明瞭に否定できる。本誌は科学に明るい読者ばかりだから、これから毎回、グラフを使ってデータを紹介してゆきます。

短時間の豪雨

理論的には、地球温暖化で豪雨は増える可能性がある。「気温が上昇するほど飽和水蒸気量が増加し、そのために降水量が増える」という関係（クラウジウス・クラペイロン関係）があるからだ。

だがこれが現実に行き起きているかどうかは、観測しないと分からない。以下に見てみよう。なお詳細については (Fujibe, 2013)¹⁾ を始めとして幾つかの論文を検討した研究ノート*を公開しているので参考にされたい。

1時間降水量の年最大値、および10分間降水量の年最大値の全国92観測所の平均値を図1に示す。

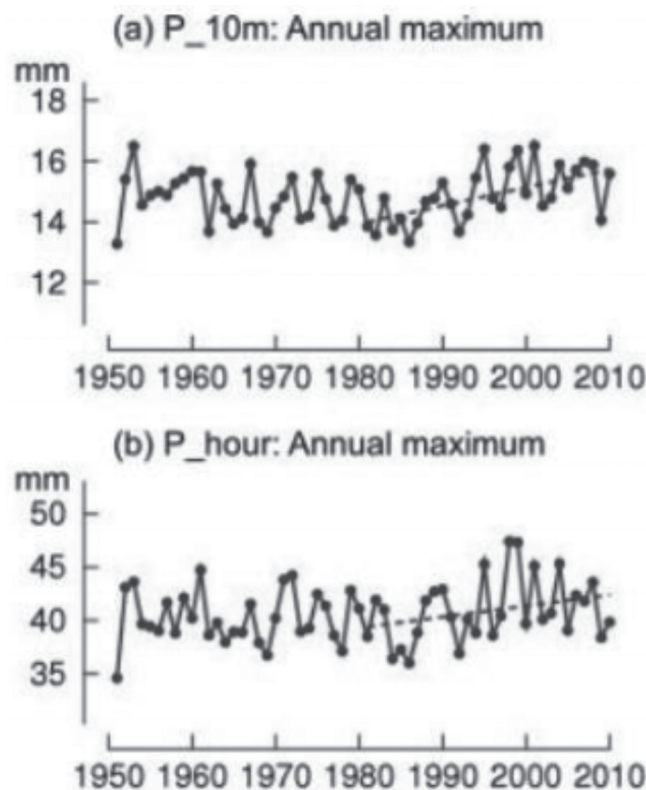


図1 (a) 10分間雨量 (P_10m)、(b)1時間雨量 (P_hour) の年最大値。期間は1951-2010年。全国92観測所の平均。点線は1980年以降についての回帰直線で、増加傾向が見られる。出典：(Fujibe, 2013)

* 拙稿、【研究ノート】豪雨の原因は地球温暖化か？ https://cigs.canon/article/20200730_5252.html